

月刊 脊 振

福岡県議会議員
(南区選出)
ひぐち明
県政活動報告誌



平成28年も残り少なくなってきました。戦争や内乱のない時代としてスタートした平成の平和が大切に守られていることに感謝の念を感じません。

先日、天皇陛下がご自身の生前退位について言及されたことが話題になりました。陛下のビデオメッセージをご覧になった方も多いと思いますが、噛みしめるように語り掛けられるお姿に、日本という国への陛下の深いお考えと愛情が感じられ、私も大きな感銘を受けました。

国会でも特別法案の提出が急ぎ進められ、メディアにも多く取り上げられています。報道の中で違和感を覚えることはないでしょうか。報道では、陛下の生前退位の賛否について世論調査を行った結果、賛成意見が圧倒的であったことについて国民が生前退位を「容認」したと表現し、各社とも国民の議論を促して記事を結んでいました。しかし、今上天皇、明仁陛下は「象徴天皇」として即位された初めての天皇として、他の誰も背負ったことのない重責のなか、この国の平和を願い、日々精力的に公務に当たってこられました。その陛下が、熟慮を重ねられた末に国民にむけて率直に語りかけられた内容について、私たちのような市井の民の尺度で改めて議論をすることが正しいのか、また必要なことなのか。



無論、日本は国民主権の国ですから、政治的な事柄であれば私たち国民自身

で議論を深め、この国の行く末を決断していくことが何よりも大切です。しかし、現在の象徴天皇制の下では、天皇陛下は国政や立法には携わらないと法で定められているわけです。その前提に立つと、陛下のご決意について国民の議論を求めたり、賛意を「容認」と表現したりすることは、あまりにも陛下への敬意に欠けると感じます。

敬意の欠如が招いた非礼

日本の建国記念日は2月11日。これは日本の正史である日本書紀の記述をもとに、紀元前660年、天照大神の血を継ぐ初代神武天皇が即位された日を祝うものです。通常は近隣諸国の歴史書などから建国時の様子をうかがうことができますが、日本の歴史はあまりにも突出して長く、当時を知る他国はありません。今上天皇は125代目にあたられますが、天皇家は、神武天皇の時代から2700年以上の間、その血統とともに、天照大神から賜った三種の神器や日本書紀をはじめとする貴重な書物や遺産を守り、この国の文化と伝統を受け継いでこられました。世界において、日本が独特の文化と長い伝統を持つ国として敬意を持たれることの背景に天皇家が守ってきた歴史があることは疑いのないことでしょう。そして、私たち日本人が天皇陛下への敬意を持つことは、私たちのもつ歴史と文化を愛することと自然に結びついているのではないのでしょうか。

そんな今、国民の意見によって陛下のご進退が左右されるようなことはあってはならない事であり、そんな議論を喚起することは誠に慎むべきだと思います。国を愛し、伝統を背負ってこられた天皇陛下のご決断を、我々国民も敬意を持って静かに受け止めていきたいものです。

南区トピックス

11月13日から南区各地で第38回南区文化祭が開催されています。演奏会や美術展示など、多彩な催しが企画されていますので、ぜひご覧ください。